

主 文

本件抗告を棄却する。

理 由

本件抗告の趣意のうち、判例違反をいう点は、判例の具体的摘示を欠くから抗告適法の理由とならず、その余は、単なる法令違反の主張であつて、刑訴法四三三条の抗告理由にあたらない（なお、申立人の昭和四六年五月二三日付書面は、抗告申立期間後に提出されたものであるから、判断を加えない。）。

よつて、同法四三四条、四二六条一項により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四六年六月八日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	大	隅	健 一 郎
裁判官	岩	田	誠
裁判官	藤	林	益 三
裁判官	下	田	武 三
裁判官	岸		盛 一